

ハナ・ウルファーツ編著 OECD 教育研究革新センター編「知識専門職としての教師、一教授学的知識の国際比較研究に向けてー」明石書店 2023 年 7 月 6 日刊を読む

第 1 章

第 1 節 序論

(1) 教育制度と教師にとり、「経済や社会を加速度的に作り変える変化」は大きな困難となる。

① 多様性を増す教室において、「21 世紀型スキルを育成すること」が、現代の教師に期待されている。

② 優れた教師であるためには、

- ・「指導と学習に関する確立された理論や原則」と、
- ・「最新の研究に基づいた実践」が必要。

③ 社会とテクノロジーは絶えず変化しているため、

- ・「教師もまた指導方法や教授法を刷新」、
- ・「知識とスキルをアップ」し続けなければならない。

(2) コロナウィルス感染症の大流行によって、「変容課題に取り組む」には、「確固とした最新の知識基盤が重要」であることが再び示された。

① 「教師は直ちにオンライン指導に移行」、「授業計画」、「指導アプローチ」、「生徒や保護者、同僚とのコミュニケーション方法を調整」することを余儀なくされた。

② 「教育の未来を待ち受ける」のは、「絶え間ない変化」

- ・「変化についていく力」
- ・「教育変容をきっかけとして指導方法を刷新し、指導スキルをアップデートする力」
- ・ そのためには「深い職業的知識」を身に着けることが求められる。

③ 「教師は、教育専門職」

- ・「適応と変容を要求する変化を乗り越える」には、
- ・「知識基盤を絶えず更新すること」が不可欠。

(3) ① 「一般的教授知識」

- ・「指導教科を超えて指導と学習に関する専門化された知識」
- ・「知識の専門職としての教師」

② 「教師は教授学的知識を柱とする専門職である」

- ・「教師の知識の強化」

第 2 節 「教師はすべての職業の母である」

(1) 「医師や弁護士などの専門職と同じく、教師も専門職に分類する」

① 「教師はすべての職業の母である」

② 「教えることは、あらゆる職業の基礎をつくり、その母体となる」

③ 「教師は、未来の市民やリーダーを育成し、社会の繁栄と個人の能力の開花を助ける」

- (2)「効果的な教育は、学業や仕事の成功をもたらす」
 - ①「教師は、生徒の学習の主な貢献者」
 - ②生徒の社会情動的発達と、ウェルビーイングにとって不可欠の存在」
 - ③「豊かな学習環境を設計し、個人の成長と学習の好ましいクラスの雰囲気を作り出し、生徒の個人学習と、集団学習を促進することに責任を負う」
- (3)「平等で包摂的な教育の実行者」
 - ①「包摂的な学習環境を作り出し」
 - ②「学習に苦勞している生徒に追加のサポートを提供」
 - ③「追いつかせ、学校コミュニティにうまくなじませることにも、責任を負う」
- (4)「キャリアの導き手、平等の実現者としての役割を果たす」には、
 - ①「教師は、学習の専門職」でなければならない、
 - ②「一貫性を以て、統合された最新の知識基盤」に基づいて、
 - ③「日々、実践しなければならない」
- (5)「教師は、専門職とみなすべきである」
 - そのためには、「指導の指針として、教師教育や職能研鑽において参照されるべき、専門化された共通の知識体系が存在すること」(が望まれます、林明夫)

第3節 「教師の専門職性の柱としての教授学的知識」

- (1)「教師が、専門職」であるなら、
 - ①「研究と実践を参照して、専門化され、体系化された知識体系に基づいて判断、行動、職務関連の判断を行わなければならない」
 - ②「科学的な知識とエビデンスを活用し、効果的な授業を設計し、実施する」
 - ③「実践や研究から新たな知見が登場し、共有されるたびに、指導と学習に関する知識を定期的にアップデート、最新のものにすることが重要」
- (2)「教えることは、複雑な仕事。それを、習得できるのは、スキルと知識のある教師」
 - ＜「教師には、複数の仕事を同時に行うことが求められる」＞
 - ①「クラスの様子を観察」
 - ②「個々の生徒やグループを励ます」
 - ③「フィードバックを与える」
 - ④「グループワーク中に、騒いで場を乱す生徒を、静かにさせなければならない」
 - ⑤「当然、そのために必要な知識も、複雑」
- (3)「効果的な指導と学習環境を設計し実施するには、様々な知識を活用する必要」
 - ①「内容知識」：「数学、歴史、芸術などの教科内容や教材内容に関する知識」
 - ②「教授学的知識」：「生徒にとって効果的な指導と、学習環境を作り出す方法に関する知識」
- (4)＜1980年代後半にショーマン(Shulman)開発「教師の基礎知識(7つのカテゴリー)」＞
 - ①「一般的教授知識」：教科内容を超えた、教室の運営と構造化に関する原則の方策の知識
 - ②「内容知識」：教科内容とその構造の体系化に関する知識
 - ③「教授学的内容知識」：特定のテーマ、問題、課題を指導に向けて構造化する方法の理解に、内容と教授法を組み込むこと

- ④「カリキュラム知識」：特定のテーマや教科を教えるよう設計された教材やプログラムに関する、教科や学年に特異的な知識
- ⑤「学習者とその特徴の知識」
- ⑥「教育的文脈の知識」：指導の文脈や、教室・グループの社会力学の理解、学校の運営や財政、学校やコミュニティの特徴などの理解
- ⑦「教育の目的、目標、価値、それらの哲学的歴史的根拠の知識」
- (5)①「学習者とその特徴に関する知識」：「生徒の学習や成果を評価する方法」
 - ②「一般的教授知識」：「教科内容にかかわらず、全ての生徒にとって効果的な指導と、学習環境を生み出すための専門化された知識」
- (6)「教師の知識の文脈的依存性の強調」
 - ①＜文脈的知識＞
 - ②「一般的な教育文脈に関する知識」：国、州、コミュニティ、学校などの広い文脈に関連する知識
 - ③「特異的な教育文脈に関する知識」：教室とその生徒を焦点とする文脈的知識
- (7)①「組織的知識」や、
 - ②「カウンセリング知識」も。

第4節 「指導と職業的な知識交換における、一般的教授知識の重要性」

- (1)「一般的教授知識」
 - ①「教科を超えて、教師に共有される知識基盤」
 - ②教科内容にかかわらず、全ての生徒にとって効果的な指導と、学習環境を生み出すための専門化された知識」
- (2)「したがって、生徒の学習の進歩や、ウェルビーイングを論じる共通の言語と省察基盤を与え、教科を超えて、指導と学習支援を向上させる手段となる」
 - ① OECD 加盟の前期中等教育課程の教師の 61 %が、月に 1 回以上、特定の生徒の学習の向上について、議論していた。(TALIS2019c,OECD,2020b)」
 - ②「一般的教授知識は、指導の質の高さや、生徒の優れた成果と関連」
 - ③「一般的教授知識の豊富な教師は、生徒に 3 か月分の追加の進歩をもたらしていた」
- (3)「一般的教授知識は、教師のウェルビーイングと、仕事の満足感にとっても重要」

第5節 「21 世紀の指導のための『一般的教授知識』と文脈に適した指導」

- (1)「一般的教授知識」は、「教育のデジタルトランスフォーメーション」など、現代の教室に次々に現れる困難を乗り越えるためにも重要」
 - ①教師の「一般的教授知識」、特に、「テクノロジー関連教授知識」は、「効果的なオンライン指導」と「学習環境の設計」において、重要な役割を果たす。
 - ②コロナウィルス感染症の大流行は、効果的なオンライン指導において、「一般的教授知識」がカギとなる役割を果たすことを鮮明にした。
 - ③学校閉鎖期間中も、知識のある教師は、生徒のニーズに合わせて、オンライン指導を行うとともに、生徒や、保護者との連絡を絶やすことがなかった。

(2) 「21 世のもう一つの困難は、「多様性を増す教室」

①多くの教育制度が「包摂性の向上」に取り組んでいる

②教師は、これまで以上に、「多様なニーズ」にこたえて、「多文化教室を運営する方法」を知る必要がある

③優れた教師は、「深い職業上の知識」を持つだけでなく、「様々な指導文脈や状況で知識を適切に利用する」には、「深い職業上の知識」を持つだけでなく、「様々な指導文脈や状況で知識を適切に利用する」

(3) ①「理論的、科学的知識」：指導と学習プロセスに関する理論や概念、効果的な指導と、教室運営に関する事実。

②「実践に基づく知識」：ある教室文脈において特定の指導方法などの知識をいつどのように適用するかに関する知識。

③「知識に基づくスキル」：文脈に基づいた知識の利用。

<コメント>先生という職業・仕事・立場を持つ人は幸せです。なぜならば、先生は、知的専門職そのものだからです。先生こそ「一生勉強、一生青春」(相田みつを)を。そうすれば、先生は「人生は青天井、一生青天井」です。先生ほど、素晴らしい仕事はありません。本書は、長年の準備を経て、2000 年から 3 年ごとに PISA 調査を実施してきた、OECD 教育研究革新センターによる、国際的な教師研究の、大「成果物」です。大いにご活用を。

2025 年 12 月 25 日